

えもんみつけ!

～市民レポーターのページ～

市民レポーターの皆さんが、市内のさまざまな場所に出かけて、市民ならではの視点から小牧の魅力や身近な話題について取材した様子を、毎月15日号で紹介していくコーナーです!

REPORT 184



直売コーナーです

9月28日、小牧市民病院東側に唐揚げ、とんかつ、炭火焼鳥「鶏炭治郎＝とりたんじろう」がオープンしました。社長の廣野友巳さんにお店のこと、お店への思いを聞いてきました。



広くて落ち着いた店内

名古屋コーチンを
地元で味わうならココ!



鶏炭治郎

店名のロゴは、店長がいっぱい思いを込めて直筆で作ったそうです。看板にのれんに、使われています。

この店は、鶏肉などの食品加工、製造に携わる地元食品メーカー「デリカ食品工業」が運営する店。社長の廣野さんは、小牧発祥の名古屋コーチンプロジェクトの委員長や観光協会の副会長を務め、名古屋コーチンの普及に尽力しています。

今回、路面店として店をオープンしたのは、まず、いつでも名古屋コーチンが購入できる店を小牧に作りたかったこと、

店内は、濃いめの色をベースにした落ち着いた雰囲気、ゆったりとした造り。名古屋コーチンや串物などの直売コーナーは、営業時間内ならいつでも利用でき、ランチタイムは、お弁当のテイクアウトにイートインコーナーもあります。夕方からは、食事やお酒を楽しめる居酒屋に変身しま

いつでも美味しい



デリカ食品工業の社長・廣野友巳さん

す（昼からも対応できます）。あらゆるお客さんのニーズに応えられるように工夫がなされているところがうれしい。

おすすめは、1本1本手刺しの焼鳥。備長炭で焼き上げます。オリジナル出汁で炊く釜めしも大人気です。唐揚げ弁当など各種弁当は400円からで、注文が入ってから作ります。

編集後記



もーみん

取材して、穏やかな店長の人柄が伝わりました。気軽に入りやすい店なので、おうち時間に、テイクアウトや直売コーナーを利用してみたいと思います。

鶏炭治郎

今回の取材先



住所：小牧5-768
電話：48-8080
営業時間：午前11時～午後2時
午後5時～10時（L.O. 9時30分）
定休日：月曜日

町工場のイメージを変えるモノづくり



優勝した作品「グナッシー」



おにぎりの具を取る「グナッシー」(写真上)。右は具が取り出されたおにぎり。



第2回「くだらないものグランプリ2021」で優勝した千成工業の取締役専務・木村彰治さんに「本当に作りたいモノ」への情熱をうかがってきました。

「町工場から日本に元気を届けたい!」と開催された「くだらないものグランプリ」を取引先から紹介され、昨年の第1回目の模様を見て、くだらないけれど、とても楽しく面白いア



取締役専務の木村彰治さん。取材は苦手……と、笑います。取材は

アイデアばかりで、ぜひやってみたいと、今年は参加しました。

受賞した作品「グナッシー」発案のきっかけとなった出来事は、残業の夜食に差し入れられたコンビニのおにぎりを選んでいたら、1人の社員が梅干の具は苦手と言った事で、「それなら具だけをきれいに取り出せないか」と考えました。

最初は星形で抜きたかったのですが、上手くい

かず、それならばおにぎりと同じ三角形で、と試しました。海苔が湿気って、スパツと綺麗に切れるようにする点が難しく、本番前日まで試作を繰り返しました。製作期間中は、社員たちの助け合いもあって、見事、優勝することができました。

楽しさとやりがい

「これをきっかけに、町工場のイメージが変われば良いと思う」と話すのは、取締役専務の木村彰治さん。インターシップを開催したり、Eコアクション、SDGsなどにも積極的に取り組んだりして、町工場のイメージ刷新を図り、次



写真①は、工場内で製作した骨組み状態の像。彩色を施し、現地では、植物で飾られ、写真下のような姿で、お披露目されました。



編集後記



まめつと

平均年齢が若く、1人の仕事を始まりから仕上げまでこなし、やりがいをもって働いていることが印象的でした。個人のオーダーなども受けてもらえる日が来るのか、楽しみだな〜と思いました。

世代を担う新卒採用に繋がっています。

普段は工場内設備の製作が主ですが、東京オリピックの公式マスケット像の骨組みの発注を受け、製作しました。

若い人が活躍する会社なので、観覧車や恐竜のオブジェを作り、自社PRをしたり、恐竜の頭を利用した蚊取り線香台や、

今回の取材先



千成工業

住所：高根2-489-1
電話：65-6211
HP：<https://sennari.aichi.jp>

機関車型の窯など、遊び心のある作品もたくさんあり、どれもとてもユニーク。今後は家具など手掛けていきたいそうです。一般化するためには、まだレーザー加工用のプログラミングに手間と時間がかかってしまうのですが、「町工場のモノづくり」を多くの人に知ってもらい、将来につなげていきたいそうです。